

大英研 大阪新英研 2025 6 月例会

6/15 (日)

午後 1 時～5 時 (受付 12:30～)

追手門学院大手前中・高等学校

南館 2 階 中 1－3 教室

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 1-3-20

(府立大手前高ではありません)

Osaka Metro 谷町線「天満橋」3 番出口からは東へ徒歩約 5 分。

京阪本線「天満橋」14 番出口からは土佐堀通と上町筋で徒歩約 5 分。

JR 東西線「大阪城北詰」からは徒歩約 8 分。

参加費：1000 円、学生 500 円

※連絡先 鎌田 (かまだ) kamada2007@sky.plala.or.jp

レポート内容

①塩山 千世 (吹田・千里丘中) 13:00～13:45 (30 分 +15 分)

「できる・できない」で判断せず、「やってみよう」と思える英語の授業づくり

防災教育では「とっさの一言」を演じながら習得し、国際理解では英語で呼びかける活動を通して他学年と交流しました。全校集会では Teams を活用し、ミニプレゼンを実施。演じることで英語が自分の言葉となり、実社会とつながる経験を子どもたちに。

②谷浦 健司 (大阪大学、元府立高校) 13:45～14:30 (30 分 +15 分)

生徒たちが動き出し社会につながる教材 ー大震災救援活動や平和・環境を守る活動へー

長年、生徒たちが動き出し社会につながる教材を積極的に取り上げ、それらを読んで行動する中で飛躍する様子を見てきました。今回はその具体例をいくつか紹介します。(1) チャップリン映画『独裁者』を観て、ピースメッセージの交換に積極的に取り組みました。(2) 英詩「私はひろがる」やマザーテレサ自伝を読んで、阪神大震災救援活動に取り組みました。(3) 国境なき医師団の活動英文を読んで、文化祭展示・募金に取り組みました、等々。

③阿部 穰 (神戸女学院中・高) 14:30～15:15 (30 分 +15 分)

「英語科と国語科との教科横断形授業を目指して」

1. 英語の仮定法と日本の古文における反実仮想の表現について
2. 単語のイメージ (たとえば、「うるはし」「らうたし」の現代語訳では出てこないイメージ) を授業で扱う方法について
3. 授業でコラム的に話したもの
4. 日本語の発音の変化。日葡辞書、蜷縮涼鼓集 (けんしゅくりょうこしゅう) など

④全体討議 15:20～16:30

⑤大英研総会 16:30～17:00

ことばの豊かさ ことばの力

今回は 3 人の方にレポートしていただき、参加者のみなさんとシンポジウム形式で行います。

